"しんじ"を信じる　京都府議会議員

二ノ湯しんじ通信

第22号

編集・発行
二ノ湯しんじ事務所

〒616-8167
京都市右京区太秦多薮町44-1
TEL：075-862-1355
FAX：075-862-1350
ninoyushinji@palette.plala.or.jp
URL:http//www.ninoyu.net

今こそ、伝統が未来を拓く！

大自然と調和した潤いある生活の再生に向けて

衆院選で示された「政治離れ」を反省する

昨年末の衆議院選挙は、結果としては自民党の大勝でした。しかし、投票率が52％と極めて低く、野党の体たらくから消去法で自民党が浮上したという、政界全体には反省が多く国民には寂しい選挙でした。

いわゆる「アベノミクス」の成果を訴えれば、その恩恵は大都市・大企業中心で、地方の中小零細・個人事業主などには景気回復の実感はないということが痛感されました。また、「地方創生」を叫べば、「東京一極集中」は戦後の自民党政治のもとで進んだと、痛烈な自己批判となりました。

先人の功罪を謙虚に検証しつつ、未来に向かって我々若い世代が政治の舵取りをする自覚を新たにせねばなりません。

そこで気になるのは、若者の政治離れです。今回の低投票率の原因も、解散前後にマスコミが盛んに主張した「大義なき戦い」ではなく、若者の政治離れでしょう。

人が生まれて死ぬまでの、結婚、妊娠・出産、育児、保育・教育、経済・雇用、医療・介護・年金などは、どれをとっても政治の影響を強く受けます。しかし、自分の人生は政治と無関係だと思っている方が、世代が若くなるにつれて多い気がします。各級選挙の投票率にそれは現れています。

「個人の人生」と「国・まちづくり」と「政治」が結びつかない程、日本は豊かで安全な国ですが、しかしそれは長くは続きません。戦後、極度に個人の自由を求めた結果、公徳心も欠如したのでしょう。公徳心があっても、社会の理想像を持たない、またはそれを実現する政党を知らない、あるいはそんな政党が無いのかもしれません。

政治に携わるものは、その観点から特に若者の政治離れを真剣に憂い反省する必要があります。国を支えるのは人です。そして若者は、将来の国の中核的な担い手なのです。

旧年中は大変お世話になり誠に有難うございました。
本年「未」の群は目標が定まれば団結し前進します。
京都の未来を示すことこそ政治家の務めと頑張ります。
本年も引き続きご指導の程宜しくお願い申し上げます。

「京都の力をしんじる夕べ」開催のご案内

と　き：平成27年3月16日（月）
18:30～ 討論会「世界から見た京都ブランド」　**19：45**～ 懇親会
ところ：ANAクラウンプラザホテル京都（地下鉄二条城前駅２番出口　徒歩１分）
会　費：**7,000円**　＊政治資金規正法第8条の２に規定する政治資金パーティーです。

２期８年間の活動の総括と、来るべき挑戦に向けて多くの方々とともに語り合いたいと存じます。
お誘いあわせてのご参加を宜しくお願い申し上げます。

京都府議会議員　二ノ湯しんじ

ゲストスピーカー：吉田裕史（よしだひろふみ）氏

東京音楽大学指揮科及び同研究科終了。ドイツ・イタリアで研鑽を積み、2007年ローマ歌劇場カラカラ浴場野外公演で指揮デビュー。2010 年マントヴァ歌劇場音楽監督に就任。2014年よりボローニャ歌劇場フィルハーモニー芸術監督に就任。日本人として初めてイタリアのセリエA クラスの歌劇場を母体とするオーケストラの芸術監督に就任した。京都では、2013年に清水寺、2014年に二条城で日伊共同制作のオペラ公演を成功させ、その様子は世界各国に放映され高い評価を受けた。

2月議会、予算委員会

京都府は、総額で約9，700億円にものぼる平成26年度2月補正予算案ならびに平成27年度当初予算案を提案しました（対前年度比で105・4％）。

安倍政権の景気対策を前に進めるためですが、予算委員会に配属されましたので、次のような質問をしたいと思います。

府議会ＨＰでは全ての質問がご覧いただけます。
■http://www.pref.kyoto.jp/gikai/

緊急防災対策

○桂川の整備について、渡月橋より上流と下流の整合性は図れているか？
○防災対策事業は、地場の土木建設業社の健全育成に資するか。公共事業全般について、価格競争に堕するような事案はないか？
○災害時に決定的に大切になる自治会単位での訓練や人のつながりの現状と課題を府はどう認識しているか。要配慮者名簿の扱いはどうか。

経済対策

○「琳派４００年」事業の、投資に対する有形無形の成果をどう見込むか？「売れる伝統工芸品づくり」に繋がる根拠は何か？
○「森の京都」や「成長型林業」という言葉で、林業の予算規模・施策などは具体的にどう変わるのか？
○農協改革の中で、府下の農業には新たな可能性が生まれてくるのか？府の戦略はあるか？
○今後の商店街の意義と、商店街振興の方向性は明確なのか？

医療・福祉

○病気の手前である「未病」を改善する取組を始めるようだが、未病の方に意識を促す有効な宣伝は何だと考えるのか？
○少子化対策＝子育て支援もさることながら、未婚・晩婚に至る人生観・結婚観・家族観への対策が急務ではないか？
○子供の貧困対策で学校に設置される支援体制だが、既存の連携組織等では課題の発見と解決は出来なかったのか？

行政機構など

○「未病」「婚活支援」等、「○○センター」の相次ぐ開設で組織が肥大化しないか？市町村行政を含めた窓口にはならないのか？
○政策立案過程で、第３者機関や専門家会議などに委ねるケースが多いが、今後の府職員に求められる専門性や資質は何か？
○京都市内の府・市・私立高校の総合的なあり方を議論する公私間協議の展望は？

府市協調のために力をあわせます！

右京区の課題解決のために、議員の存在は重要です。京都府議会でも京都市会でも第一党の自民党議員の主張は、より多数の地元住民の声として役所も緊張感を持って受け止めます。これが、右京区発展の鍵となります。

府議会・市会の選挙は、4月3日（金）告示、4月12日（日）投開票の日程に決まりました。右京区の自民党は、候補予定者が大きく入れ替わります。井上市議とは今まで以上に、そして新人の田中・森田両氏とも連携を深めて、右京区・京都のためにしっかり頑張ります。

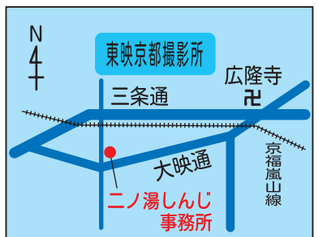
森田　守氏

田中たかのり氏

井上与一郎市議

お困りごとなどご相談ください

皆様にとって、行政の仕事の役割分担は分かりにくいものです。「どこに相談に行けばいいのか？」とお悩みの時は、私の事務所まで、お気軽にお問い合わせください。



右京区太秦多薮町44－1（大映通り）
ＴＥＬ 075－862－1355
ＦＡＸ 075－862－1350

◆ともに語り合いましょう！

二ノ湯しんじは、教育のこと、環境のこと、福祉のこと、地域のこと、そして京都や日本の未来のことなど、皆様とお話をできる場をたくさん作っていきたいと考えています。時間や場所、人数は問いません。どのような会でも結構です。皆様のお声を聞かせてください。

◎お問い合わせは、二ノ湯しんじ事務所まで

京都府でも、景気や人口の増減・構造の点で明確な地域間格差があり、事業や技術の継承の問題があり、都市と農山村が共に生きる「地方創生」が急務です。それこそ今後の課題だと、今強く思っています。
「様々な人に居場所と役割がある温かな地域社会を再構築」するためにも、「地域に定着できる雇用創出」が不可欠で、そのためにも「府・市が行革を通じて無駄なく機能」できるよう努力し、各分野の活動方針を定め、地道に改善に取り組んで参ります。

○温かな地域社会
○定着できる雇用
○真の府市協調

医療・介護・福祉

●健康寿命が長い「明るい長寿社会」のための健康づくりを推進
●安心な地域医療と介護が行える地域社会のネットワークづくり
●一時保護された者が自立し社会復帰できる福祉サービスの充実

教　育

●自分が生きる地域や国を誇り自分自身を愛せる歴史・公民・道徳教育
●適正に応じた進学と、身に付けた知識や技術で生き抜く力の育成
●少子化時代の適正な学校配置。地域の核としての学校の存続は必要

家　族

●学校教育での人生観・結婚観・家族観を考えることが大切
●人の移動が激しく交流が希薄な社会における子育て世帯のサポート
●３世代同居家族の再評価とそれを推進する各種制度の構築

地域社会

●女性の経済社会への進出と、地域での男女の役割分担の再考
●伝統的に社寺が担った「集う場」を設け、つながりの構築が重要
●自治会活動をきめ細かくサポートできる市町村のあり方の再考

産業・雇用

●京都の文化的資源が存続できる産業の構築。伝統産業、映画、町家など
●在京の優秀な大学生が定着できる産業育成。研究開発・試作など
●京都縦貫道・新名神高速道路などの新たなインフラの整備の強みを活かす

農山村の活性化

●産業としての農業を基本に、環境や集落を守る農業も共存
●山は命の源。森林税設立で他府県産材に負けない木材の供給を
●田舎で生きる価値、都市を支える農山村機能の再評価

防災を担う建設業の育成

●災害対策等で国も地方も10年単位の財源確保を提示すべき
●建設産業は地方都市の重要な産業。適正な利潤を得られる入札を
●雇用確保のために、他産業に劣らない賃金体系の構築

行政機構・警察

●より多くの民間活力の活用と、専門家集団としての公務員の役割分担
●市町村合併の検証と、地方自治体の役割の再考。府市二元行政解消
●親切で信頼される警察行政へ。職務環境の改善も重要

〈身辺雑記〉

○町内会長の私は防災部長を兼任している。秋には学区と町内ともに防災訓練を行い、課題がたくさん見えた。避難場所は？自力で避難できない人は？備蓄の水・食糧・防災バッグの用意は？消火器は使えるか？何よりも震災への関心はあるか・・・。いざという時はまず住民自らが動かなくてはならない。行政頼みの日本社会の病みを垣間見た気がした。

○二之湯という名前は、三重県の員弁（いなべ）の発祥で、他にはないらしい。だから全国の二之湯姓は、数代遡れば員弁で繋がる。員弁という地名も、古代に祭祀を司った忌部（いんべ）氏から来ており、忌部氏は、大和、出雲、紀伊、阿波、讃岐、安房などに分布した。その祖は、岩戸開きに登場する天太玉命（あめのふとだまのみこと）とされる。個人と地域と歴史・神話が繋がれば、社会に対する意識も変わると思う。

○長男は図画工作が好きだから芸術の方面へ。二男は地図や絵本が好きだから学術の方面へ。三男は運動と歌が得意だから芸能界へ（笑）まだまだ親が勝手に夢を見られる年頃だ。それにしても3人とも本当によく似てきた。

○私が統括プロデューサーを務めた創作時代劇ドラマ『鬼神剣サキ』が12月29日にKBS京都で放映された。「子どもが食い入るように見ていた。」「もっとシブいのが見たかった。」と賛否両論だったが、放映にまで至ったことに業界関係者の評価は高く、せっかくなので劇場公開やDVDレンタル・販売をすべきと提案が続いている。次の展開を期待してほしい。

○昨年11月末に北村好司郎さんが亡くなった。発足から20年以上、献身的に歩こう会の世話をして頂いていた。ここ数回は、私自身で下見をして案内文を作っているが、改めて北村さんの有難さが身に沁みている。本当に感謝に堪えない。同時に、多くのご支援で今の私があることも忘れずにいたい。